

平成30年群馬県農業産出額

農政部 令和2年4月

群馬県における平成30年の農業産出額は、2,454億円と前年に比べて3.8%減少（96億円）し、2年連続の減少となりました。減少理由は、野菜、果実等及び畜産（生乳、豚、鶏卵）の価格が低下したことによるものです。また、都道府県別の順位は14位です。

部門	区分	産出額 (億円)	構成比 (%)	対前年 増減額 (億円)	概要	
農業産出額 計		2,454	100.0	▲96		
耕種	米	166	6.8	3	単収の向上により収量が増加し、わずかに増加した。	
	麦類	12	0.5	▲1	単収の減少と大麦の単価が減額したため、かなりの程度減少した。	
	雑穀・豆類	4	0.2	0		
	いも類	8	0.3	▲1	H29同様に、ばれいしょ等、いも類の作柄は平年並みであったが、単価が平年に比べ安値で推移し、かなり大きく減少した。	
	園芸	野菜	983	40.1	▲14	キャベツを始めとする夏秋野菜は、猛暑や台風等の影響もあり、出荷量は少なく、価格は高値で推移した。11月以降は、気温が高く、天候も安定していたため、野菜類全般で安値傾向となり、その結果、産出額は前年比でわずかに減少となった。
		果実	83	3.4	▲13	うめ、日本なしは生産量が回復、りんご、キウイフルーツ等は開花期～春先の天候不順・台風等の影響で生産量が減少、果実全体ではかなり大きく減少となった。
		花き	54	2.2	▲3	作付面積が減少したことに加え、鉢物単価が昨年に比べ低下し、産出額がやや減少した。
		計	1,120	45.6	▲30	
		工芸農作物	82	3.3	8	こんにゃくは、出芽開葉時の高温、小雨と9月の台風による倒伏で生産量は減少したが、単価上昇により、産出額はかなり大きく増加した。
		種苗・その他	13	0.5	0	
	計	1,405	57.3	▲22		
畜産	肉用牛	161	6.6	8	乳用肥育肉牛の生産量は大幅に減少したものの、和子牛の単価が上昇し生産量が増加したことで、産出額はやや増加した。	
	乳用牛	269	11.0	▲20	乳牛飼養頭数の減少により生乳生産量が減少し、生乳単価もわずかに減少したことで、生乳の産出額はかなりの程度減少した。	
		うち生乳	218	8.9		▲14
	豚	409	16.7	▲43	農家数の減少により出荷頭数はわずかに減少し、肉豚価格が低下したことから、産出額はかなりの程度減少した。	
	鶏	199	8.1	▲17	鶏卵価格とブロイラー価格が低下したことから、産出額はかなりの程度減少した。	
	その他	11	0.4	▲1	産出額は昨年と同程度となった。	
		うち養蚕	1	0.0		0
	計	1,047	42.7	▲76		
	加工農作物	1	0.0	0		
	(参考) 水産物	5	0.2	0	産出額は昨年と同程度となった。	

個別農産物順位

(注) 合計と内訳は四捨五入の関係で必ずしも一致しない。

順位	品目	産出額 (億円)	構成比 (%)	前年順位
1	豚	409	16.7	1
2	生乳	218	8.9	2
3	キャベツ	196	8.0	3
4	米	166	6.8	4
5	肉用牛	161	6.6	5

わずか：±2%以内 やや：±3～5% かなりの程度：±6～10% かなり大きく：±11～15% 大幅：±16%以上
